洞窟現代第1回企画展

秘境を求めて
Seeking for Undiscovered Regions

会期　2013年10月19日|土|— 11月17日|日|火曜定休

開場時間　11:30 — 19:30

オープニングパーティー　10月19日（土）18：00 -

クロージングパーティー　11月17日（日）18：00 -

会場　洞窟現代 〒252-0254 神奈川県相模原市中央区下九沢61-5

出品作家　清岡 正彦・澤田 育久・サム ストッカー・仁木 智之・松下 誠子・カリン ピサリコヴァ

入場料　無料

ディレクション　清岡 正彦

企画協力　清岡正彦アート設計事務所

制作協力　株式会社リペアバンク

作家紹介 Artists' Profile

清岡 正彦
Masahiko Kiyooka

1973年高知県生まれ。1999年多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。絵画から離れ、在学中より作品と作品が置かれる場所との関係性を求めた構築物を発表。以降、美術のための空間を飛び越え、重要文化財、使われなくなった学校、銭湯、倉庫などと共に、場所から新たな場所を出現させる作品を発表し続けている。近年では、中之条ビエンナーレ、所沢ビエンナーレなどに出展し、此岸と彼岸を揺れ動く事物そのものに肉薄する「作庭の根源」を試みる。洞窟現代では、発起人としてディレクションも務める。

http://www.floatingdive.com

" Unlimited Landscape （風景無限）" 2009

澤田 育久
Ikuhisa Sawada

1970年東京都生まれ。写真家の金村修に師事し、現在まで写真を撮り続ける。澤田の作品の特質は、漂白されたような都市のディテール写真と、印画紙、展示空間が関係性を帯びるように構造化（建築化）される。それぞれが本来意識されないままであるはずのものが、界面上のリアリティを通して一体化され、私たちの見知った風景と知覚の最中に、芸術が生じる瞬間を体感として垣間見せる。近年では、「Closed Circuit」というタイトルで、写真と展示空間の狭間に、イメージと物質の皮膜的な変容の局地を探し求めた試みを、月一回ペースで実験的に行っている。

http://sawadaikuhisa.com

" Closed Circuit " 2013

サム ストッカー
Sam Stocker

1977年英国ロンドン市生まれ。英国レディング大学美術学部を卒業後、エディンバラ・カレッジ・オブ・アートにてポストグラデュエートディプロマを取得。現在、東京藝術大学大学院に研究生として在籍中。ストッカーのつくり出す作品は、建築と彫刻、彫刻と家具、家具と場所といった、様々な造形性の境界に視覚言語をもつ。そして、仮設された構築物としての場所作品は、展示が終わる度に燃やされ、一連のプロセスを私たちの消費社会に突きつける。近年では、日本文化にインスパイアされ、自然と人工を溶解し、より一層、「無名性に結びついた造形言語」を構築化している。

http://www.samstocker.com/

" Noh " 2011

仁木 智之
Tomoyuki Nikki

1968年神奈川県生まれ。1998年英国ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ大学院修了。初期から現在まで、継続して体感型の作品を発表。鑑賞者にとって、仁木の作品は、死者ではなく、生者のための「棺桶」として機能する。美術作品として鑑賞されることと、棺桶として体感されることの相反する価値を同居させ、私たちに芸術の基準を投げかける。死を隣人として従えるような、身体感覚に新たなリアリティを出現させるその装置は、勇気を持って棺桶の中で体感した者のみの共通語として、対話が生まれるように設計されている。

https://www.facebook.com/tomonikkijp

" Still Living （まだ生きている）" 2004

松下 誠子
Seiko Matsushita

北海道生まれ。母親の影響で、幼少の頃から神話に登場する鳥を描くようになる。現在まで、個展、グループ展を中心に、絵画、素描、彫刻、写真、映像作品など、幅広い表現手法を試みる。松下にとって重要なのは、身体の皮膚と衣服の狭間にある「第二の皮膚（衣服）」を作品として思考されていることである。彼女の世界観は、身体の皮膚に被さる、もうひとつの皮膚（衣服）を造形のベースにしながら、叙事詩のように、新たな神話が紡ぎ出される鳥のマスクと身体をもって、現実をイメージの庭へと浮遊させる。

http://matsushitaseiko.web.fc2.com

" MV (Mother's Voice) 47/83 " 2009

カリン ピサリコヴァ
Karin Pisarikova

チェコ共和国ブルノ市生まれ。現在、多摩美術大学大学院美術研究科博士課程在籍中。ピサリコヴァにとっての作品のベースは、絵画や彫刻ではなく、自らの身体にある。そして、アイデアやコンセプトに向き合うために、自らの肉体を作品に登場させ、周りの環境を舞台に変容させる。現実とフィクションの狭間をアーティストとして緩やかに飛び越えていく彼女の作品としての生き方には、人として、女性として、母親としての生々しい喜びも、芸術的な体験として、日常をユーモラスに異化させる作用を放つ。

http://karinpisarik.tumblr.com

" Untitled " 2012

神奈川県相模原市に「洞窟現代」という、新たな芸術空間が誕生しました。工場地帯の一角にある、築40年の倉庫に芸術家が集い、芸術家による、芸術家の発言の地点がここに生まれたのです。洞窟現代では、美術館や、画廊とは異なるユニークな空間の特質を活かし、毎年1回、定期的に展覧会を開催して行く予定です。

Official website　http://dokutsu.net

洞窟現代　〒252-0254神奈川県相模原市中央区下九沢61-5

お問い合わせ：秘境を求めて2013実行委員会

Tel：080-4344-6752　Email：info@dokutsu.net

会場での注意点

1：会場は100㎡の倉庫となりますので、駐車場、トイレなどの完備がございません。予めご了承ください。

2：白い衣着、女性のスカートなどは、汚れる可能性がありますので、服装には十分に配慮願います。

会場までのアクセス

JR相模線「南橋本駅」西口から徒歩12分

JR横浜線「相模原駅」南口から神奈中バス相36下九沢団地行き「日電寮前」下車バス停から徒歩2分